

職員	所長	次長	主査	主事	社会教育主事	指導主事	主任保健技師	用務員兼運転手	計
人員	1	1	1	1	1	2	1	1	9

第3節 利用状況

少年自然の家の利用は、①学校教育の一環として利用する場合、②少年団体等社会教育関係団体が利用する場合、③少年団体指導者養成のため市町村教育委員会等が利用する場合、④県並びに所の主催事業に参加する場合等に大別される。

本年度の利用総人員は、171団体、研修実人員14,728人、延研修人員は35,882人であったが、その詳細な利用状況は、次のとおりである。

1. 学校が利用したもの

利用した学校、学年、研修人員並びに研修内容は〔表1〕のとおりである

2. 社会教育関係団体等が利用したもの

利用団体、研修人員並びにその研修内容は〔表2〕のとおりである。

3. 少年団体指導者養成のため利用したもの

主催団体、研修内容並びに参加対象、研修人員は〔表3〕のとおりである。

4. 所の主催事業

(1) 少年自然の家利用研究協議会

① 目的

・社会教育関係団体の積極的な活用法について研究協議する。

② 期日・会場・参加者数

ア 期 日 昭和48年5月12日

イ 会 場 福島県少年自然の家

ウ 参加者数 市町村教育委員会事務担当者 42名

③ 助言者

福島県教育庁社会教育課社会教育主事 神野藤忠吉

同 県中教育事務所社会教育主事 鈴木 光二

④ 研修内容

○少年自然の家の実地見学

○施設の効率的な活用法について

(2) 御霊櫃峠つつじめぐり

① 目的

御霊櫃峠一帯の新緑、つつじを探勝しながら共同宿泊、野外レクリエーションをとおして、家族の望ましい人間関係をつくる。

② 期日・会場・参加者数

ア 期 日 昭和48年6月9日～10日

イ 会 場 福島県少年自然の家

ウ 参加者数 親子、兄弟（姉妹）など家族単位で参加
57名

③ 研修内容

○御霊櫃峠登山 ○キャンドルファイヤー

○レクリエーション

(3) 親子キャンプ登山のつどい

① 目的

キャンプおよび登山を通じ、大自然に親しみながら、相互の親睦、健康の増進を図る。

② 期日・会場・参加者数

ア 期 日 昭和48年8月3日～5日

イ 会 場 福島県少年自然の家

ウ 参加者数 親子または地域のグループ（原則として子ども5人に成人1人の6人でグループ編成）単位で参加 156名

③ 研修内容

○野営訓練

○炊飯コンクール

○キャンプファイヤー

○ハイキング

○レクリエーション交歓会

(4) 親と子のつどい

① 目的

親子での共同宿泊生活を通じ、野外レクリエーションなどに楽しいひとときをおくって、望ましい親子関係を深める。

② 期日・会場・参加者数

ア 期 日 昭和48年10月20日～21日

イ 会 場 福島県少年自然の家

ウ 参加者数 親子単位で参加 89名

③ 研修内容

○フィールドワーク

○親子大会（室内ゲームと交歓）

(5) 少年自然の家利用連絡協議会

① 目的

昭和49年度利用予定学校の代表者による、利用期日の調整並びに利用手続きの説明会をもち、あわせて所の効果的な活用法について研究協議する。

② 期日・会場・参加者数

ア 期 日 昭和49年2月1日

イ 会 場 福島県少年自然の家

ウ 参加者数 県下小・中学校代表者 150名

③ 講師

福島県教育庁義務教育課主幹 渋谷靖十郎

同 社会教育課主幹 松本 久

④ 研修内容

○少年自然の家実地見学

○利用期日の調整

○利用上の基本方針と利用手続きについて

○効果的な活用法について

(6) 児童会・生徒会リーダー交歓会

① 目的